（別紙4）　　令和　2　年度　　（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1990100024		
法人名	社会福祉法人　ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校悠ゆう		
所在地	山梨県甲府市武田2丁目8－17		
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1－2－12
聞き取り調査日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成18年12月より民家改修型グループホームとして10年運営してきた施設ですが、建て替えを行い平成30年3月末より4階建ての建物にて新たに開設しました。その1・2階にグループホームがあります。3階には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。また。4階には児童養護施設があり、高齢者と児童が同じ建物の中で生活している施設です。玄関が一つのため、子供たちが学校や遊びに行く際や帰りには、「いってきます」・「ただいま」と声があり、利用者も「いってらっしゃい」・「おかえりなさい」と答える光景が日々みられています。児童との外出などの交流もあります。近くにはスーパーがあり買い物に行くなどのほか、職員との個別外出などの行事や地域行事には積極的に参加をしています。地域行事の一つである文化祭には近くにある同法人のグループホームと合同にて合唱発表や作品展示をしています。

事業所は甲府駅に近く武田通りに面した利便性の良い住宅街の一角にあり、鉄筋4階建ての1階と2階の2ユニットになっている。3階には小規模多機能型居宅介護施設、4階には児童養護施設があり小規模型グループケアになっている。日頃から子ども達が登下校時に利用者と挨拶を交わす等、家庭的な雰囲気と温もりにあふれ児童と高齢者が交流しながら生活している。周辺には小学校や医療機関、同法人が運営するグループホームがあり連携を取り協力体制も整っている。食事の準備や掃除など日常生活を職員と一緒に過ごすなど、事業所理念に沿って利用者が明るく生きがいと活気にあふれ心安らぐ生活が送れるように日々の支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項　目	該当するものに○印	取り組みの成果	No.	項　目	該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度（コロナ禍以前）
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが（コロナ禍以前）			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校悠ゆう**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　1階　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　2階　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方が生きてきた過程と尊厳を大切にし、安心して笑顔で過ごせる様、理念を共有しケアにあたっている。	その方が生きてきた過程と尊厳を大切にし、安心して笑顔で過ごせる様、理念を共有しケアにあたっている。	「尊厳を大切に」を理念とし、安心して家庭的な雰囲気の中で、笑顔で生活が送れるよう、朝礼や職員会議で意義を確認している。また、事業所内に理念を掲示して、日頃から職員に意識づけされている。利用者一人ひとりが笑顔で過ごせるよう日々接し、理念がケアに反映されるように取り組んでいる。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加している。毎年地域の文化祭には、合唱発表で参加させてもらっている。作品も出展している。自治会に加入している他、地域の役員の一員となっている。日々の生活の中での挨拶には心掛けている。雪が降った際には、職員が積極的に近隣の雪かきを行うなどしている。	地域行事には積極的に参加している。毎年地域の文化祭には、合唱発表で参加させてもらっている。作品も出展している。自治会に加入している他、地域の役員の一員となっている。日々の生活の中での挨拶には心掛けている。雪が降った際には、職員が積極的に近隣の雪かきを行うなどしている。	地域住民の一員として、自治会に加入している。回覧も来て情報を得ている。地域行事の参加や毎年地区の文化祭には利用者の作品を出展したり、合唱も披露して地域住民と交流する機会があった。コロナ禍で行事等が中止になっている。有価物の回収日に住民との挨拶や管理者が自治会との関りをもち、地域とのつながりが作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携をとり、地域での困りごとなどに相談を受けたりしている。近くを通りかかった方が立ち寄られたり、道で声をかけてもらう事もあり随時対応している。	地域包括支援センターと連携をとり、地域での困りごとなどに相談を受けたりしている。近くを通りかかった方が立ち寄られたり、道で声をかけてもらう事もあり随時対応している。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し感想や意見を述べてもらっている会議での意見や会話の内容などは職員会議等で報告し今後のサービスに活かしている。	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し感想や意見を述べてもらっている会議での意見や会話の内容などは職員会議等で報告し今後のサービスに活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者家族、地区社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなっている。事業所からは活動内容の報告等を行い、検討事項等について参加メンバーから意見をもらうようにしている。前半は書面開催とし、後半は通常開催している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困り事や利用に関する疑問があった場合は市役所に行ったり、電話をし相談している。	困り事や利用に関する疑問があった場合は市役所に行ったり、電話をし相談している。	市の担当者には運営推進会議の議事録を送付して、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて伝えている。利用者の入居、退所に関する相談等、何かあれば相談に応じてもらえるように関係づくりに努めている。市から介護相談員の受け入れもしている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するよう職員研修や職員会議・身体拘束委員会にて定期的に指導している。日々の何気ない声かけの中にも拘束が潜んでいること、拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	全職員が身体拘束について理解するよう職員研修や職員会議・身体拘束委員会にて定期的に指導している。日々の何気ない声かけの中にも拘束が潜んでいること、拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	同法人の甲府市内事業所職員の研修会や法人全体の内部研修、身体拘束委員会が定期的に開催されている。出席した職員のレポートや研修の資料等を職員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は自動ドアで自由に出入りでき、安全に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体への暴力だけが虐待ではなく、身体拘束同様、言葉かけや何気ない対応も虐待につながることを注意として促している。入浴時や健康チェック時、体調の変化に気づくことが大切であることを指導している。	身体への暴力だけが虐待ではなく、身体拘束同様、言葉かけや何気ない対応も虐待につながることを注意として促している。入浴時や健康チェック時、体調の変化に気づくことが大切であることを指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けているが、全職員が理解し説明できる事には難しさがある。個々の必要性に応じて利用者や家族に適切な支援していくことが課題ではある。	成年後見制度を受けている利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けているが、全職員が理解し説明できる事には難しさがある。個々の必要性に応じて利用者や家族に適切な支援していくことが課題ではある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と連絡を取り合い、不安な点・疑問な点について納得・理解してもらうように対応している。疑問な点も出てくると思うのでその都度答えられる様対応している。	家族と連絡を取り合い、不安な点・疑問な点について納得・理解してもらうように対応している。疑問な点も出てくると思うのでその都度答えられる様対応している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話や運営推進会議において、家族からがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員にえ、改善に取り組んでいる。運営に反映したことや検討していることを、面会時や運営推進会議において報している。	面会時や電話や運営推進会議において、家族からがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員に伝え、改善に取り組んでいる。運営に反映したことや検討していることを、面会時や運営推進会議において報している。	コロナ禍で面会制限もあり、家族等から直接聞く機会は少ない。電話連絡や電話が来た時に聞くようにしている。家族等から面会についての意見があり、面会時間を制限して面会場所を設定し、家族等と面会できるように意見を反映させた。家族等からの意見、要望は検討して対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームめだかの学校悠ゆう**

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況) ユニット名(1階)	自己評価(実践状況) ユニット名(2階)	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や要望等は、十分とは言えないが聞くように心がけている。その場では言いにくい場合は個別に時間を作る様にしている。行事など可能なものについては、導入している。	日々の業務の中で職員の意見や要望等は、十分とは言えないが聞くように心がけている。その場では言いにくい場合は個別に時間を作る様にしている。行事など可能なものについては、導入している。	日々の業務の中で自由に意見、要望が言える環境である。個別面談は行っていないが、気になる職員には個別に聞いている。法人内の事業所会議が月１回あり、管理者が出席して施設長、理事長に話す機会がある。職員から勤務、有休、物品等の意見、要望は聞いて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や職員4の勤務可能な条件等も考慮して勤務を作成している。能力ややる気・資格取得に応じた昇給も行っている。	休み希望や職員4の勤務可能な条件等も考慮して勤務を作成している。能力ややる気・資格取得に応じた昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の内部研修会や月1回の職員研修会を行い知識や技術の向上に努めている。日々の業務内においても介助方法などを見直すこともしている。外部の研修にも参加できるよう案内を周知したり必要に応じ参加要請している。学んだことは報告してもらい職員間の学びの機会としている。	年5回の内部研修会や月1回の職員研修会を行い知識や技術の向上に努めている。日々の業務内においても介助方法などを見直すこともしている。外部の研修にも参加できるよう案内を周知したり必要に応じ参加要請している。学んだことは報告してもらい職員間の学びの機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつか施設があるので職員交流や研修を取り入れたり、他施設との相互訪問も取り入れ情報交換サービス向上に努めている。	法人内にいくつか施設があるので職員交流や研修を取り入れたり、他施設との相互訪問も取り入れ情報交換サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人が生活している場所へ訪問したり、これから生活する場所を見てもらうようにしている。また、家族や身近の方に接し方や生活について機器、入居後顔を合わせた時に安心してもらえるような声かけなどの対応を心がけている。	入所前に本人が生活している場所へ訪問したり、これから生活する場所を見てもらうようにしている。また、家族や身近の方に接し方や生活について機器、入居後顔を合わせた時に安心してもらえるような声かけなどの対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、入居前から話す機会も多いので困っている事、不安に思うことに耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用できるように心がけている。また、家族の思いを受け止め、助言や支援に努めている。	家族とは、入居前から話す機会も多いので困っている事、不安に思うことに耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用できるように心がけている。また、家族の思いを受け止め、助言や支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、その方が望んでいる支援を受けられる様、誤解や不安を招かないよう話し合う機会を持つように心がけている。	本人や家族の話を聞き、その方が望んでいる支援を受けられる様、誤解や不安を招かないよう話し合う機会を持つように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし自身が出来る事はできる限りしていただき、時には娘、息子、孫の様にお互いが声を掛け合うような和やかな関係作りができている。。	家庭的な雰囲気を大切にし自身が出来る事はできる限りしていただき、時には娘、息子、孫の様にお互いが声を掛け合うような和やかな関係作りができている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族にしかわからない思いもあるため、その関係性を崩さないよう少しでも共有させていただき支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係を築けるよう面会時など声をかけながら話せるよう心がけている。	本人や家族にしかわからない思いもあるため、その関係性を崩さないよう少しでも共有させていただき支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係を築けるよう面会時など声をかけながら話せるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果　　事業所名：**グループホームめだかの学校悠ゆう**　　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）ユニット名（　1階　）	自己評価（実践状況）ユニット名（　2階　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せきの方などから情報を得て、馴染みの場所へ出かけたり、近隣からの入居者が居るのでひ孫などの運動会を見に行ったり、面会時に訪問者と写真を撮り、居室に張りなどして馴染みの人を忘れないようにしている。	家族や親せきの方などから情報を得て、馴染みの場所へ出かけたり、近隣からの入居者が居るのでひ孫などの運動会を見に行ったり、面会時に訪問者と写真を撮り、居室に張りなどして馴染みの人を忘れないようにしている。	入居時に利用者、家族から聞いて馴染みの人や場所の把握をしている。家族、親戚の方やお墓参りや自宅に行く等馴染みの人や場所の支援もしていたが、コロナ禍で面会制限や外出の自粛もあり困難な状況になっている。家族の電話を取り次ぎ、つながりを継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で和気あいあいと話したり、入居者同士で慰め合う、支え合う光景も見られている。時にはもめごともあるがその際には、職員が見守り、話の間に入り孤立する方がいない様、皆が楽しく過ごせるよう努めている。	皆で和気あいあいと話したり、入居者同士で慰め合う、支え合う光景も見られている。時にはもめごともあるがその際には、職員が見守り、話の間に入り孤立する方がいない様、皆が楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所に伴い契約解除になった後も、必要に応じて家族と連絡を取ったり、入居先の担当者と情報共有し困ることがないように努めている。ご逝去による契約解除においても、今までの関係性を大切にし必要時には相談にのれるよう努めている。	入院や施設入所に伴い契約解除になった後も、必要に応じて家族と連絡を取ったり、入居先の担当者と情報共有し困ることがないように努めている。ご逝去による契約解除においても、今までの関係性を大切にし必要時には相談にのれるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中で見つ行っている。本人の意向がはっきり聞けない場合は行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。意向に沿えないものは、別な方法を考えるよう努めている。	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中で見つ行っている。本人の意向がはっきり聞けない場合は行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。意向に沿えないものは、別な方法を考えるよう努めている。	入居時に利用者、家族の生活に対する意向を聞いて把握している。日々の関わりの中での話や利用者同士の会話等から思いや暮らし方の希望を聞くことがあり、ケース記録に書いて職員間で共有している。意思疎通が困難な利用者は、家族からの情報や日々の行動、表情から汲み取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から若い時の話などを聞いたり、家族から可能な限り話を聞き把握する様にしている。また、面会にいらした親戚や知人から失礼のない範囲で聞いている。話すことを拒否することもあるので、その際はあえて触れないように配慮している。	本人から若い時の話などを聞いたり、家族から可能な限り話を聞き把握する様にしている。また、面会にいらした親戚や知人から失礼のない範囲で聞いている。話すことを拒否することもあるので、その際はあえて触れないように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣を大事にしながら、一日の過ごし方を把握する様に努めている。職員同士が日々気づいた事や情報を共有しその方が持っている力を奪わず維持していける様心がけている。また、出来ないではなくやっていただく事から始めている。	今までの生活習慣を大事にしながら、一日の過ごし方を把握する様に努めている。職員同士が日々気づいた事や情報を共有しその方が持っている力を奪わず維持していける様心がけている。また、出来ないではなくやっていただく事から始めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞きケアマネが計画を作成してる。また、以前のサービス時の情報も前ケアマネより情報をもらい今後の生活の参考としている。計画を元にケアを行い職員会議などで話し合い検討している。変化に対しては、職員がチームとして都度話し合い送りノートも活用し介護計画に反映できるようにしている。	本人や家族の要望を聞きケアマネが計画を作成してる。また、以前のサービス時の情報も前ケアマネより情報をもらい今後の生活の参考としている。計画を元にケアを行い職員会議などで話し合い検討している。変化に対しては、職員がチームとして都度話し合い送りノートも活用し介護計画に反映できるようにしている。	入居時に作成している介護計画は、入居前に関わりのあった関係者、利用者、家族等から情報を得て、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んで作成している。毎月、職員会議でアセスメントを含め職員全員で話し合い、モニタリング、カンファレンスを行っている。見直しはモニタリングに基づいて3か月又は6か月とし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や利用者の言葉やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りノートに記入し職員間で共有している。 日々変わる事なので臨機応変に対応している。	日々の生活の様子や利用者の言葉やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りノートに記入し職員間で共有している。 日々変わる事なので臨機応変に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービス規制に縛られてしまいニーズに応えられないことや難しい現状があつが代替えになることなどを探り対応に取り組んでいる。	臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービス規制に縛られてしまいニーズに応えられないことや難しい現状があつが代替えになることなどを探り対応に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームめだかの学校悠ゆう

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　1階　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　2階　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合もある。近隣の店に買い物に行くことも地域資源の一つであると考え、広い視野を持ち安心・安全に暮らせるよう支援していきたい。	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合もある。近隣の店に買い物に行くことも地域資源の一つであると考え、広い視野を持ち安心・安全に暮らせるよう支援していきたい。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について聞いている。入所と同時にかかりつけ医との関係が切れない様、家族の協力を得ながら受診している。必要に応じて主治医に情報を書面で伝えたり、受診同行したり、家族が受診対応できない場合は職員が対応し、主治医と面識をもち、関係作りに努めている。	入居時にかかりつけ医について聞いている。入所と同時にかかりつけ医との関係が切れない様、家族の協力を得ながら受診している。必要に応じて主治医に情報を書面で伝えたり、受診同行したり、家族が受診対応できない場合は職員が対応し、主治医と面識をもち、関係作りに努めている。	かかりつけ医の受診は、基本的には家族対応で主治医に伝えたいことは書面にして渡している。職員が同行して主治医に伝える事もある。他の利用者は、協力医で法人内のクリニックをかかりつけ医として月2回、職員同行で定期受診している。薬の変更や受信結果は家族等に連絡し共有している。専門医の受診には職員が同行し、診療が行われるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護師は常駐していないが、介護職員には気付いた事は随時、管理者に報告・相談し、法人内施設の看護師に相談したり、受診対応している。主治医から訪問看護の派遣をしてもらったケースもある。	ホーム内には看護師は常駐していないが、介護職員には気付いた事は随時、管理者に報告・相談し、法人内施設の看護師に相談したり、受診対応している。主治医から訪問看護の派遣をしてもらったケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は、情報提供している。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来るよう相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みのある病院との関係作りは出来ているが、関係作りが出来ていない病院も多く今後取り組む課題と思っている。	入居者が入院した時は、情報提供している。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来るよう相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みのある病院との関係作りは出来ているが、関係作りが出来ていない病院も多く今後取り組む課題と思っている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢ということもあり、先の事を考え入居時、契約時から本人や家族の意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け、時間をかけて取り組んでいる。看取りについて家族から相談されることも増えているので、説明し往診医による受診を行っている方もいる。職員にも終末期について勉強会も取り入れている。。	高齢ということもあり、先の事を考え入居時、契約時から本人や家族の意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け、時間をかけて取り組んでいる。看取りについて家族から相談されることも増えているので、説明し往診医による受診を行っている方もいる。職員にも終末期について勉強会も取り入れている。。	契約時に重度化や終末期について事業所での対応について説明し、利用者、家族等の意向を聞いて方針を決めている。食事が低下して重度化した場合は、主治医に相談して利用者、家族等と話し合いの機会をもち意向を踏まえ、確認しながら取り組んでいる。事業所での看取りを希望した場合は、医師、職員が連携をとり支援していく体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会において職員が講師となり、緊急時の対応・連絡体制を研修している。また、最低でも年1回は救急法を日赤救急指導員を講師に招き指導を受けている。職場内には緊急時対応のマニュアルが掲示している。	内部研修会において職員が講師となり、緊急時の対応・連絡体制を研修している。また、最低でも年1回は救急法を日赤救急指導員を講師に招き指導を受けている。職場内には緊急時対応のマニュアルが掲示している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、外出時を利用した時間を作り避難訓練をおこなっている。夜間想定の避難訓練も行っている。職員研修において水消火器と使い体験訓練を実施している。年1回の地域の避難訓練に職員と利用者数名で参加している。地域にも協力をお願いしている。また、地域からは災害時の避難場所としての活用をお願いされている。	年数回、外出時を利用した時間を作り避難訓練をおこなっている。夜間想定の避難訓練も行っている。職員研修において水消火器と使い体験訓練を実施している。年1回の地域の避難訓練に職員と利用者数名で参加している。地域にも協力をお願いしている。また、地域からは災害時の避難場所としての活用をお願いされている。	同建物内で夜間を想定した訓練も含め、年3回以上実施している。地震、火災を想定して、職員と利用者も一緒に訓練している。普段から外出時には訓練に繋げて避難場所の意識づけがされている。また、内部研修は他の事業所と合同で水消火器操作体験を行い、いざという時に備えている。災害時の避難場所として、地域の高齢者を受け入れる準備もしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳の気持ちを忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけない様馴染みの関係を保つような声かけに配慮している。職員には、職員研修、会議時はもとより日々の業務の中でも都度声かけや対応の指導をしている。	人生の先輩としての尊厳の気持ちを忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけない様馴染みの関係を保つような声かけに配慮している。職員には、職員研修、会議時はもとより日々の業務の中でも都度声かけや対応の指導をしている。	基本的には、声かけは敬語で心のこもった対応を心がけている。利用者の尊厳を大切にして、トイレ誘導時は暗号を使い、声かけは小さい声でプライバシーに配慮した対応を行っている。居室に入る時は、必ずノックをしてから入るようにしている。また、居室内の排泄用品にも気を配り見えない工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校悠ゆう**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）	自己評価（実践状況）	外部評価	
			ユニット名（　　1階　　）	ユニット名（　　2階　　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話す機会を設けたり、問いかけるような声かけを行ない、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。職員は聞く姿勢を 持ち意向を聞ける雰囲気作りに努めている。	個別に話す機会を設けたり、問いかけるような声かけを行ない、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。職員は聞く姿勢を 持ち意向を聞ける雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にあった支援をするように心がけている 時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので工夫や代わりに出来る事を考えながら支援や対応をしていく様に心がけている。	その人にあった支援をするように心がけている 時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので工夫や代わりに出来る事を考えながら支援や対応をしていく様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみとして髪をとかす、髭を剃る事は習慣として支援している。外出時には普段とは違う洋服を着て頂けるよう入所時に外出着を持って来てもらっている。女性は化粧道具も持って来てもらい外出時やイベント時には化粧をしている。定期的に美容カットをしてもらっている。	朝の身だしなみとして髪をとかす、髭を剃る事は習慣として支援している。外出時には普段とは違う洋服を着て頂けるよう入所時に外出着を持って来てもらっている。女性は化粧道具も持って来てもらい外出時やイベント時には化粧をしている。定期的に美容カットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みが反映できるよう要望を聞いたりし対応している。週2回の自由メニューや誕生日特別食には利用者の好きなものを聞き取り入れている。季節行事食もおこなっている。生活歴を活かし、毎食ごとに準備や配膳・片付けを一緒にしている。	一人ひとりの好みが反映できるよう要望を聞いたりし対応している。週2回の自由メニューや誕生日特別食には利用者の好きなものを聞き取り入れている。季節行事食もおこなっている。生活歴を活かし、毎食ごとに準備や配膳・片付けを一緒にしている。	利用者の好みを踏まえて、献立を作り職員が調理している。法人の管理栄養士に栄養バランス等を見てもらっている。週2回、夕食を自由メニューにして、利用者と相談しながら決めるようにしている。盛り付け、配膳、食器拭き等職員と一緒に行っている。誕生日食、季節の行事食等は、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や持病・ムセ・嚥下状態・食べるペースなどを考慮し日々の状況を考え刻みやミキサー食・トロミの使用を対応している。食の細い方には少なめにし完食する喜びをわってもらう様支援している。職員間では誰が対応しても良いように共有している。水分は食事以外にもこまめに補給してもらっている。	体調や持病・ムセ・嚥下状態・食べるペースなどを考慮し日々の状況を考え刻みやミキサー食・トロミの使用を対応している。食の細い方には少なめにし完食する喜びを味わってもらう様支援している。職員間では誰が対応しても良いように共有している。水分は食事以外にもこまめに補給してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は、義歯は定期的に洗浄剤につけるようにし、清潔、口臭などに配慮している。	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は、義歯は定期的に洗浄剤につけるようにし、清潔、口臭などに配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して時間での誘導や自身でトイレに行かれる方には出来る事はしてもらいながら足りない部分への対応している。排泄の失敗がない方には紙パンツから普通のショーツに切り替えている。	個々の排泄パターンを把握して時間での誘導や自身でトイレに行かれる方には出来る事はしてもらいながら足りない部分への対応している。排泄の失敗がない方には紙パンツから普通のショーツに切り替えている。	排泄チェック表を使用して、個々のパターンを把握している。排泄用品も利用者に合わせて使用し、常に見直しをしている。トイレ誘導も身体機能に応じて、手を出し過ぎず足りない部分への対応を心がけ、自立に向けた支援に繋げている。トイレでの失敗も、他の利用者に気づかれないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし早めの対応を心がけている。 下剤の服用を減らす様に、毎朝起きた際に冷たい牛乳や水を飲んでもらっている。薬に頼らず排泄につながる方も増えてきている。	排泄パターンをチェックし早めの対応を心がけている。 下剤の服用を減らす様に、毎朝起きた際に冷たい牛乳や水を飲んでもらっている。薬に頼らず排泄につながる方も増えてきている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は行っている。週3回の入浴ができるように本人の希望や体調を考慮しながら入浴をしている。入浴を拒む場合は無理強いはしない様にしながら声かけや介助者(同性介助など)を変えるなど工夫をするようにしている。入浴剤も取り入れて入浴が楽しめる工夫をしている。	毎日入浴は行っている。週3回の入浴ができるように本人の希望や体調を考慮しながら入浴をしている。入浴を拒む場合は無理強いはしない様にしながら声かけや介助者(同性介助など)を変えるなど工夫をするようにしている。入浴剤も取り入れて入浴が楽しめる工夫をしている。	毎日、入浴できる準備はしている。週3回を目安として、利用者の生活習慣や希望にあわせて入浴支援している。入浴日以外にも、下着は毎日着替えている。羞恥心等に配慮して、同性介助に努め安全な入浴を心がけている。入浴剤、ゆず等季節感を取り入れて、入浴を楽しめるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームめだかの学校悠ゆう**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）ユニット名（ 1階 ）	自己評価（実践状況）ユニット名（ 2階 ）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については、一人ひとりの様子や体調に気を配り、自分から言えない人も入りため声かけに配慮している。夜間においては早く寝る事を無理強いしない様に心がけている。寒い時期には個々の希望に合わせ、湯たんぽや電気毛布などを使用し安眠できるように努めている。	休息については、一人ひとりの様子や体調に気を配り、自分から言えない人も入りため声かけに配慮している。夜間においては早く寝る事を無理強いしない様に心がけている。寒い時期には個々の希望に合わせ、湯たんぽや電気毛布などを使用し安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服薬も説明書が綴ってあり職員が理解しておくようにしている。服薬チェック表に服薬介助した職員名を記入し飲み忘れに気を付けている。服薬の変更があった場合は、申し送りノートを活用し共有し、チェック表も変更している。気づいた事は記録に残す、職員間で伝え合うようにしている。	個人ケースに服薬も説明書が綴ってあり職員が理解しておくようにしている。服薬チェック表に服薬介助した職員名を記入し飲み忘れに気を付けている。服薬の変更があった場合は、申し送りノートを活用し共有し、チェック表も変更している。気づいた事は記録に残す、職員間で伝え合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力に合わせ、掃き掃除、モップかけ、洗濯干し。洗濯物の取り込みなどを行ってもらっている。コーヒーや甘い物など好きなものを提供したり、気分転換としてユニット間や近くの法人施設に遊びに行くなど交流出来る様にしている。	生活歴や能力に合わせ、掃き掃除、モップかけ、洗濯干し。洗濯物の取り込みなどを行ってもらっている。コーヒーや甘い物など好きなものを提供したり、気分転換としてユニット間や近くの法人施設に遊びに行くなど交流出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近隣施設への行き来は行っている。普段行けない場所への外出は、個別外出という形で可能な場所には出かける様に支援している。定期的に家族と外出する方やお正月やお盆など外出する方もいる。（今年はコロナ禍にて出来てない）	散歩や近隣施設への行き来は行っている。普段行けない場所への外出は、個別外出という形で可能な場所には出かける様に支援している。定期的に家族と外出する方やお正月やお盆など外出する方もいる。（今年はコロナ禍にて出来てない）	コロナ禍で周辺の散歩も控えている。屋内に閉じこもることのないように、洗濯物を干す手伝いやベランダに出て外気に触れ気分転換している。お天気の良い日には、事業所の駐車場でお昼を食べている。また、法人のクリニックに定期受診の際は、ドライブ気分で車窓から季節を感じ支援に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等で職員が付き添うことにより自分で品物を選び、代金を支払い楽しめる支援をしている。個人で財布を持っている方もいるので、そこから購入することも支援している。	買い物等で職員が付き添うことにより自分で品物を選び、代金を支払い楽しめる支援をしている。個人で財布を持っている方もいるので、そこから購入することも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいとの要望については、家族の事情も踏まえて対応している。手紙については最初から書けないとあきらめている方もいるので一緒に行える様支援している。家族や知人から来たはがきや手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。	家族に電話したいとの要望については、家族の事情も踏まえて対応している。手紙については最初から書けないとあきらめている方もいるので一緒に行える様支援している。家族や知人から来たはがきや手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り品を飾ったり、手作りの空間作りに工夫している。共有フロアーには季節ものや花などを飾るように心がけている。出来る限り家庭的な雰囲気を出すように工夫している。	利用者の手作り品を飾ったり、手作りの空間作りに工夫している。共有フロアーには季節ものや花などを飾るように心がけている。出来る限り家庭的な雰囲気を出すように工夫している。	利用者が多くの時間を過ごす共用空間はテレビ、加湿器が置かれ、キッチンはオープンになっていて調理する様子や音、匂いを感じることができる。フロアの壁には季節ごとの飾りや習字等が飾られ、家庭的で明るく心地よい空間となっている。コロナ感染予防に配慮して職員の検温やマスク着用、消毒、空気清浄加湿器等の対応を行い安心して暮らせる場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場所が少ないのが現状だが希望や状況で一人で居室で過ごしたり、時には職員と居室で話したりするなど工夫している。	限られた空間であるため、一人になれる場所が少ないのが現状だが希望や状況で一人で居室で過ごしたり、時には職員と居室で話したりするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持って来てもらったり、家族との写真を飾ったりし自身の部屋であることを認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。身内の位牌や遺影を持って来ている方もいる。紙パンツなどは人目にはわからない様に工夫している。	居室には馴染みの物を持って来てもらったり、家族との写真を飾ったりし自身の部屋であることを認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。身内の位牌や遺影を持って来ている方もいる。紙パンツなどは人目にはわからない様に工夫している。	居室入り口には、手作りの花に名前を書き表示してある。1階はベット、エアコン、カーテンが2階はベット、エアコン、カーテン、チェストが備え付けてある。テレビやぬいぐるみ、家族写真等の馴染みの物が置かれ、利用者一人ひとりの個性を感じる居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間であることで、職員の目が届きやすく、手すりを使っての移動も自身で出来ている。歩行器や押し車を使用している方もいる。居室に続く廊下をリハビリと歩く練習に行き来している利用者もいる。	限られた空間であることで、職員の目が届きやすく、手すりを使っての移動も自身で出来ている。歩行器や押し車を使用している方もいる。居室に続く廊下をリハビリと歩く練習に行き来している利用者もいる。		